

# 大好き! 幾春別川

DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

発行元: 幾春別川ニュース編集委員会  
編集委員長 嵯峨 義輝

〒068-0007

岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局  
TEL: 0126-23-9555 FAX: 0126-25-1697

## 幾春別川で思いっきり

三笠市の幾春別川上流で7月30日、「ラフティング体験と川の泳ぎ方教室」が行われました。

「三笠ダムフェスタ2006&遊園まつり」の行事の一つとして開催され、三笠市内外から23人の親子が参加しました。

約2・2キロメートルのラフティング(川下り)で、途中、三笠市立博物館近く

の危険の少ない場所に上陸し、少しくれただけで生き生きとした。インストラクターの指導のもと、万が一、川で流されたときの、安全な泳ぎ方の手ほどきを受けました。

「私たちが子どものころはよく水遊びをしていました。今は川に近づかないように言われています。しかし本来、川遊びは楽しいこと。大人も子どもも、水に

少し触れただけで生き生きとし、「川ガキ」の本能がよみがえってきます。そんな機会を子どもたちに、たくさん与えてあげたいですね」とスタッフの高篠和憲さん。

ラフティングはもとより川に入って浮かんでいるところのみなさんの表情は「水を得た魚」のようにはじけていました!



川遊びは最高の自然体験!



### 川の泳ぎ方、伝授します!

BY 三笠の湖・川・緑を愛する会 会長 高篠 和憲



### トムソーヤ気分で大自然を満喫! 森の中で大喜びの子どもたち!

「大自然と友達になれたよ!」と毎年子どもたちの元気な感想が聞こえてくる「桂沢トムソーヤ」が7月29日、三笠市の桂沢湖畔公園で開催されました。

今年も地元札幌などから、合計で

31人の親子が参加しました。

「森と湖に親しむ旬間イベント」の一つとして、毎年行われている恒例の行事です。

主催は、桂沢ダム水源地域ビジョン推進連絡会。空知森林管理署、桂沢ダム管理所、三笠市と、三笠の湖・川・緑を愛する会などが協力して開催しました。

森と湖に囲まれた素晴らしい自然を舞台に子どもたちは「木エクラフト」や「ツリーイング(ロープによる木登り)」「化石のクリーニング」「ネイチャーゲーム」に取り組みました。

木エクラフトでは、自分の納得するデザインになるまで根気よく取り組む姿が印象的でした。

ツリーイングでは桂沢湖が見渡せる高さまで木を登り、普段とは違う眺めに子どもたちは大満足の様子でした。短い北海道の夏を満喫できたよう



真剣に制作中



### 足元の草花たち

PART. 2

ネジバナ (ラン科) と サラシナショウマ (キンポウゲ科)

写真家 若林 信男 (わかばやし のぶお)

細すぎて、周りに同化してしまつて余りにされない「ネジバナ」。日当たりの良い芝生や河川敷、林縁部に咲くラン科の仲間です。

環境により咲く時、同じ場所でも5〜6本束のように咲く時や、ポツンポツンと一輪ずつ咲く時、また、年によっては余り見られない時があります。

花は、らせん状にクルクルと茎を巻くように小さなピンク色の花を咲かせます。見つけたときは、何だか得した気分になります。

薄暗い森に咲く花、「サラシナショウマ」。

サイクリング道路のほとんどの山の斜面で日陰になっています。そんな薄暗い森にひと際白く目立つように咲いています。

離れた場所から見ると、雪よりも白く浮いたように見え、川風にゆらゆらと揺れ、その存在感をアピールするかのようには咲いています。

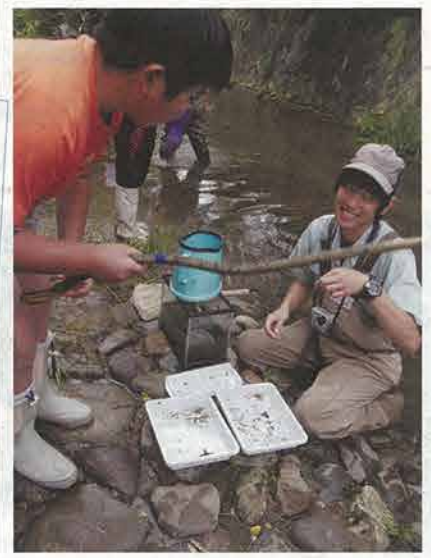
比較的好く見ることができ、花の少ない夏ならではの花。歩き疲れた体に涼しさを与えてくれる花です。

◀ネジバナ  
サラシナショウマ▶





# 三笠・幌内小学校の児童 水生生物調査を実施!



担当者(写真右)が、水生昆虫について、詳しく説明してくれました



水中眼鏡を使って川底をじっくり観察中!



どれどれ、何がとれたのかな?



ヘビトンボを手にする男子!

## 幌内小最後の思い出に・・・

三笠市の幌内地区を流れる幌内川を「たくさん生き物がすめる、きれいな川にしよう!」と7月19日、幌内小学校の全校児童14名による「幌内川クリーン作戦」が行われました。

幌内川は小学校のすぐ目の前を流れている、子どもたちにとっても身近な川です。岩見沢河川事務所の協力によって毎年開催されています。

川のことをよく知るために、「流速測定」や「透明度測定」「虫や魚などの生物調査」についてプログラムが組まれました。

アヒルの「浮き」を使った流速測定では、川の真ん中や端など流れる場所によって速度が変わることがわかりました。

水中眼鏡を使って川底を観察する透明度測定では、普段見ることのない川の底を飽きることなく、じっくり観察していました。

生物調査では、川の石をはぐったところから、きれいな川の証拠とされるヘビトンボやモンカゲロウ、シマトビケラなどの生物が次々に発見されました。

「いつもの年より少ないけれど、大きくて種類が多い」と先生。ちよっとグロテスクな姿でしたが、男の子たちは手に乗せて元気に観察!

また、ヤナギの枝を竿にして魚釣りにも挑戦。膝まで川の水につかりながら、どの児童も存分に楽しんでいました。

「魚は釣れなかったけれど、去年よりもたくさんのお虫を発見できた」「いろいろ勉強できて楽しかった」などと感想が寄せられました。

幌内川は「きれいな川」ということを、一人ひとりが知ることができたようです。

幌内小学校は今年度で閉校します。来年度からは三笠市立小学校に統合されるため最後の「幌内川クリーン作戦」となりましたが、児童たちにとって思い出深い一日となりました。



草刈は、雨上がりのあつが刈りやすい!

幾春別川をよくする市民の会が、幾春別川をきれいにお手入れ!

## フラワーラインと地域ふれあい清掃



河川敷で可憐に咲くハマナス(7月)

「フラワーライン」の一つとして恒例の草刈が、7月18日に幾春別川の河川敷で行われました。

午後4時過ぎ、北盛地区や北地区、若松地区の住民約50人が鎌や鍬などの草刈道具を持ちよって、元町にある発祥の地記念公園に集まりました。

初回から毎回参加しているという北本町の松山孝敏さん(80)。「雨上がりあとが一番、草を刈りやすいんだよ。今日はよく刈れるね」と元気に手を動かしていました。

「今回は前もって町内会の方

ちがある程度刈っておいてくれたので、おかげ様で早く終わることができました。少しずつ、「自分の川の川をきれいにしよう」という意識がみなさんの中に根付いてきているようです」と幾春別川をよくする市民の会の馬淵副会長。

また、8月8日にも「地域ふれあい清掃」として緑公園前緑地に集まり、花壇の周囲の草取りや清掃を行いました。

それぞれの町内会の皆さんが協力しあい、にこやかに参加している姿が印象に残りました。



誰が一番早く釣れるかな…?



自然の宝物がいっぱいの幌内川です

みんなで仲良く、アヒルの浮きを手に記念撮影!



# 川とわたしの思い出



幾春別川をよくする市民の会 事務局長 西方 洋昭

## 鬱蒼とした木々に囲まれていた幾春別川

川の思い出は、あまり楽しいと言えるものはありませんでした。祖父母の代から岩見沢駅北の幾春別川沿いに家があり、川は身近な存在ではありませんでした。

父が幼少のころ、冬の幾春別川には氷が張り、対岸まで雪で地続きとなり、よく家の屋根から向こう岸までスキーで滑ったものだと言われていました。

私の小さい頃も、鬱蒼とした木々に囲まれた川で、よく蛇が出たものでした。つい40年ほど前のことです。

私が小学校の低学年のころ、河川改修工事がありました。木々はすべて無くなり、三面装甲の近代的な川となり、鉄格子のようなフェンスに囲まれました。

また、上流の桂沢ダムの放水時には危険なので川から離れるよう、アナウンスが大きなスピーカーから流れてくる。そのような様子で、学校でもとにかく川は危険で子供

の近づくところではないと教えられ、川に落ちて溺れて亡くなった子もいました。そんな幼少期を過ごしたこともあり、川に対する親しみというものはほとんど無かったと思います。

そんな私が、なぜ今では川の会の事務局長をしています。とても不思議な気がしますが、きっかけはサケだったのかもかもしれません。

サケを呼び戻し川をよみがえらせようとする、幾春別川をよくする市民の会の活動に関わっているうちに、様々な川を愛する人たちに会ってきました。そして様々な川も見えてきました。

自分の家の前の川しか知らなかった私が川遊びをしたり、カヌーで川下りをしたり、上流部の沢登りをしたりと、川の本来的な姿、良さも怖さも知った上でその川につきあうようになっていく楽しさを知り、その魅力にどんどん引き込まれていきました。

今はその楽しさを、多くの人に伝えたい、多くの子どもたちに体験させてあげたいと思い、日々活動しています。

これからの世代の子どもたちにもきれいな川を残したい。そして、そのような活動を通じて知り合える人との出会いの素晴らしさを、これからも伝えていきたいと思っています。



鬱蒼とした木々と畑の間に幾春別川が流れていました





① 幾春別川の堤防側に、「水害に強いまちづくり」と大きく書かれた看板が設置されています。工事についての説明がわかりやすく示されています。



② 工事は「たつが大橋」の近くで行われていました。上は完成予想写真ですが、左の写真のように、すでに旧美唄川と幾春別川は通水していました。通水前は4ページの写真のように、2つの川はたつが大橋を挟んで別々に石狩川に注いでいましたが、幾春別川と石狩川の合流点は、この工事で4Kmほど下流に移りました。



幾春別川(左)と旧美唄川(右)の合流点



④ 地元出身の井深さん。説明にも力が入っていました!

見学の感想

この工事のお陰で、私たちの生活は守られるのだということがわかりました。河川敷に草木を絶やさぬ工夫や、工事中に発生した砂などによって汚れてしまう川の水を、下流までいかないように汲み上げてろ過するなど、環境に配慮していることわかりました。災害を防ぐことも、自然を守ることも、どちらも大切なこと。自然と共存しながら私たちの生活も豊かになる、そのような工事をこれからも期待しています。

石狩川の支川、幾春別川と旧美唄川の周辺は、泥炭性の軟弱な低平地で、隣接する地域よりも地盤が低くなっています。ひとたび大雨が降ると、しばしば全域が浸水してきました。「幾春別川新水路事業」は平成3年度から実施。石狩川にそれぞれ合流していた旧美唄川と幾春別川を新水路に一つにまとめ、石狩川との合流点を下流に移すことにより、旧美唄川と幾春別川の水位を下げ、洪水を防ぐことを目的としています。事業は今年度、完成の予定です!

雅美の体験レポート



幾春別川探検隊!

今回は、「幾春別川新水路事業」をご紹介します!

■幾春別川の流域には、川と関係の深い様々な施設があります。FMIはまなすの千葉雅美(ちばまさみ)が体を張ったレポートをしていきます。

今回の案内人

国土交通省 北海道開発局 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所 いぶか まさよし 井深 幹剛さん



③ 幾春別川の堤防工事。掘削工事で出た残土は、「水害に強いまちづくり」のため、低地に盛土したり、パークゴルフ場(左写真)などの公共施設の基盤造成に利用されていました。また川岸は、コンクリートむき出しではなく、植生が施されるなど自然に配慮した方法で工事が行われていました。



長年の功績が認められ、川に関わる2団体が表彰を受賞!!

【水・土壌環境保全活動功労者 環境省水・大気環境局長表彰】 岩見沢市の幾春別川をよくする市民の会(嵯峨義輝会長)が、長年取り組んできた水環境保全活動の功績が認められ、6月30日「水・土壌環境保全活動功労者環境省水・大気環境局長表彰」の受賞伝達式が空知支庁で行われました。活動内容は、これまで本紙で取り上げてきた、平成2年からのサケの稚魚の飼育支援や、「緑の回廊づくり事業」の一環として取り組まれてきた幾春別川沿いの植樹活動や清掃活動など多岐にわたります。幾春



表彰される幾春別川をよくする市民の会の嵯峨会長

【治水功労者 北海道開発局長表彰】 平成18年度治水功労表彰者伝達式が7月28日、岩見沢市北村支所で行われ、長

年の活動の功績が認められた幌達布新水路事業対策協議会(池田満会長)に対して、石狩川開発建設部長より池田会長に表彰状が授与されました。その後、受賞を記念した式典も開催されました。同協議会は平成元年8月に設立され、幾春別川新水路事業に係わり、地域住民との協議、地権者の理解を得るなど調整役を務め、河川事業の促進に多大な貢献を果たしました。また、平成3年からは毎年、旧美唄川の河川清掃に取り組み、河川環境保全、美化活動への貢献も評価されたものです。



川での泳ぎ方を指導しているところです

当会は平成5年より、「全国水環境交流会「N北海道」として設立し、平成10年12月、NPO法人の申請を契機に「水環境北海道」に改名しました。現在の会員数は約200名で、公務員や会社員、学生など多彩な人達で構成されています。一人でも多くの方が川に親しみを感ずり、流域が運命共同体であるという認識を持って行動してほしいという願いで、様々な事業を展開してきました。



わたしたちの活動紹介

川を中心にした活動を展開する仲間たちをご紹介します。

Part. 2 NPO法人 水環境北海道 ■恵庭市

- ① 「Eポート」という10人乗りのボートを採用し、上下流の流域住民が水辺で親しみ交流を深める「北海道Eポート大会」
② 毎年秋に帰ってくるサケと千歳川の恵みに感謝するため、流域住民により船で、ゴミ拾いを行う「千歳川ウエルカムサマーモン・クリンリンパ」
③ 体験学習型プログラムを通して環境面における問題意識を深め、流域全般の環境に精通したオピニオンリーダーを育成することを目的とした「千歳川・かわ塾」
④ 石狩川の流域連携を促進する方策として、関係地域から船によって江市に集結し「人、モノ、情報」の交換を行う「石狩川流域交流フェスタ」
⑤ 「カミネツコン」という特殊ボットを用いた植樹活動
以上のほか調査研究業務や各種シンポジウムなども開催しています。
今後、地域・流域が抱える諸問題を自分の問題と捉え、広域的な連携のもと、石狩川下流及び千歳川を主たるフィールドに、水環境の保全と向上を達成する上で有効と思われる先駆的な活動を発信していきたいと思っております。
(文責 事務局 菊池静香)

平成18年度 治水功労受賞式

受賞者 幌達布新水路事業対策協議会



北村地区の幌達布新水路事業対策協議会



流域の人と歴史

洪水体験談 VOL. 2

泥だらけの家の中。二度と体験したくない、あの辛い思い

(前号の続き)

床上まで来るのに1分もかかっていない。どんどん水かさは増してくる。わが家は昭和20年代に建てた木造モルタル。内装は薄いベニヤ、毛管現象だろう、水かさ以上に水がベニヤ板の隙間を登っていく。水かさも膝より上になる。そのうち、いろいろな物が流れてきて家にびつつか

る。その度に家がぐらつく、何せ、わが家は写真のように粗末な家、丈夫な基礎では無く、ただの束石の上に家が乗っている、極めて水害に弱い。

このとき初めて恐怖を感じた。家が流されるのではないかと、流木のようなものが当って壊れるのではとか。やがて2時間ほどして水が引き出した。

その後が大変である。水は出す、水道は止まったようである。

1階は泥沼である。まず家の中の泥を洗い出さなければならない。水道が止まっているので雨水を使って粗洗い、泥だらけの畳を外に出す。

水や泥を充分含んだ畳は大人4人がかりでなければ持ち出せない。便所を汲み取らなければならないが、なかなか来ない。

それもそうだろう。うちばかりで

はないのだから、汲み取りが来たのは翌日の午後であった。この日は知人宅に泊った。

とにかく水害で一番困った事は、水の確保とトイレの始末である。

これは何を置いても一番先にやらなければならない事である。

水害にあった家庭に対する復旧作業は、まず水とトイレである事をこのとき学んだ。

当時は汲み取り式の便所、それが溢れたのだから町中が異臭を放つ。市外から救助に来た人は、三笠の街は黄色で覆われており、そこから発する臭いに悩まされた、後で聞いた。

とにかく水害の後始末は大変なことである。これは被害に会った者でなければわからない。私はその後、昭和56年の水害にもあった。床上浸水である。41年ほどの高さではない



昭和41年8月、集中豪雨で冠水した三笠市多賀町(小林氏所蔵の写真)

が、5cmや10cm違ってもそれほど被害の差はない。

ただ、2度も水害に遭うと、わが家のような貧弱な家は束石が斜めになってしまい、家が傾いてしまう。

「耐震強度不足の建築物」ではないが、とてもそこでは生活できなくなってしまい、その後、新しい今家を建てることになってしまった。

とにかく、水害に遭う事は2度とあって欲しくない。それが被害にあった者の率直な思いである。

今、地球温暖化現象の現れなのだろうか。両極の水床の現象、永久凍土の現象、海面の上昇台風やハリケーンの巨大化、気温の急激な変化、突然襲う

豪雨。しかも、短時間に大量の雨を降らせる現象などが世界各地で起きている。

北海道でも例外ではない。だからこそ、1日も早い新桂沢ダム・三笠ほんべつダムの完成を望むのである。

「災害は忘れたころにやって来る」と言うのは、昔のことと知っている。

インドネシアで起こったジャワ島の地震だってそうだろう。2004年末にはインド洋地震津波で、23万人の犠牲者を出した。

私はあえて言いたい。「災害はいつでもやって来る」と。

(終わり)

三笠市長 小林 和男 (いばやし かずお)



水辺の風景



「桂沢ダムの紅葉」

※今回の写真は三笠市からの提供です。

10月上旬、桂沢ダム(湖)の周囲にあるダケカンバやイタヤカエデなどの木々が、彩り豊かに紅葉します。美しい秋の桂沢湖を眺めに是非いらしてください。お待ちしております。

写真募集 あなたの好きな水辺の風景を写して、お送りください!

■応募内容

プリント、デジタルポジフィルムなど形態は自由です。写真のほかに、川に対する「想い」を100文字程度にまとめてお送りください。本紙「大好き! 幾春別川」に掲載させていただきます。

※1人何点でも応募できます。また、写真の返却はいたしませんので、あらかじめご了承ください。



北村地区と新篠津村付近を流れる石狩川。右手に、両地域を往来するたつぷ大橋が見えます

川の記憶

「離縁」した美唄川と旧美唄川 夫婦になった旧美唄川と幾春別川

昭和6年版の河川概要によると美唄川は「美唄駅付近より石狩平野の中央を緩流し、蜿蜒迂曲(えんえんうきよく)すること7里半余りに及び美唄太において本流に合する」と記され、旧美唄川は現在の美唄川を合わせて流れていました。

新水路計画により、美唄川を直接石狩川に切り替えることとし、当初は、土地改良事業として大正10年に着工し、大正12年に通水しました。

北村史によると「もともと本村の水害に悩みの深い美唄川は、氾濫防止のため、美唄市荻農場において、石狩川に放水する捷水路が大正13年に着工され、翌14年2月、延長1,880メートルが竣工しました。その間、上流6,347メートルの河道改修が行われ、捷水路上流口堰止工事

軟弱な泥炭性地盤が広がる流域一帯は、石狩川の背水の影響を受けて浸水被害を繰り返す洪水常襲地帯となっていました。事業着手以来15年の歳月を経て、平成18年2月、晴れて旧美唄川は幾春別川へと嫁入りをしたのです。

(締切工事)も実施されたとあり、土地改良事業および河川改修によって美唄川と旧美唄川は離縁したのです。しかし、旧美唄川流域は昭和37、50、56年の洪水で、幾度となく甚大な被害を受けました。川新水路事業を平成3年度に着手しました。

募集中 お・た・よ・りお待ちしております!

本紙は、楽しい紙面を作るためにみなさまからのご意見や感想、また、今後取り上げてほしい記事の内容などについておたよりを募集しております。下記のおて先までおたよりを郵送してください。

★送付先★ 〒068-0007 岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 「大好き! 幾春別川」編集委員会事務局 ※ご質問の場合も、郵送またはファックス(0126-25-1697)へお願いします。

年間行事予定

■サケの遡上調査

- ・開催予定日: 9月下旬~10月下旬
・開催予定場所: 川向頭首工左岸 (岩見沢市)
・主催: 幾春別川をよくする市民の会

■幾春別川フラワーライン2006

- ・開催予定日: 9月26日※雨天時は27日
・開催予定場所: 狩野橋付近(岩見沢市)
・主催: 幾春別川をよくする市民の会

■「幾春別川クリーン作戦」と石狩川流域1人1本300万本植樹運動「幾春別川緑の回廊づくり植栽事業」

- 「幾春別川クリーン作戦」
・開催予定日: 10月5日
・開催予定場所: 桂泉橋及び錦橋周辺 (ほか市内4ヵ所(三笠市))
・主催: 三笠の湖・川・緑を愛する会
●「幾春別川緑の回廊づくり植栽事業」
・開催予定日: 10月5日
・開催予定場所: 萱野橋右岸上流 (三笠市)

・主催: 三笠の湖・川・緑を愛する会

■緑の回廊植栽事業

- ・開催予定日: 10月中旬~下旬
・開催予定場所: 北幌橋左岸下流 (岩見沢市北村)
・主催: NPO法人 山のない北村の輝き

■緑の回廊づくり市民植栽

- ・開催予定日: 10月中旬~下旬
・開催予定場所: 狩野橋左岸下流 (岩見沢市)

・主催: 幾春別川をよくする市民の会

■サケの特別採捕・体験学習

- ・開催予定日: 10月31日
・開催予定場所: 川向頭首工左岸 (岩見沢市)
・主催: 幾春別川をよくする市民の会

■サケの発眼卵受け入れ

- ・開催予定日: 11月下旬
・開催予定場所: 岩見沢水道庁舎研修室
・主催: 幾春別川をよくする市民の会